



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

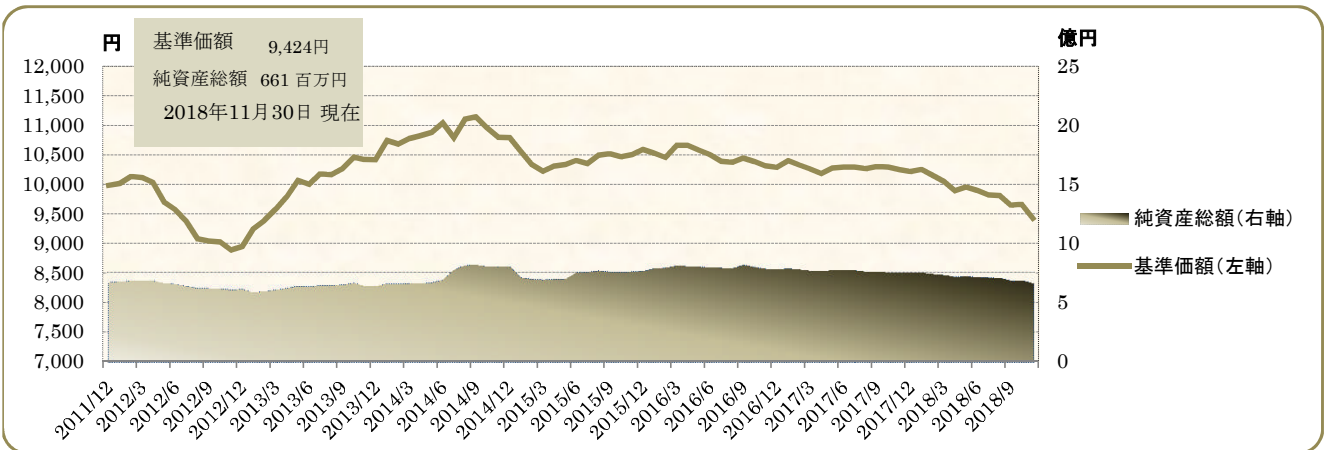
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2018年11月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

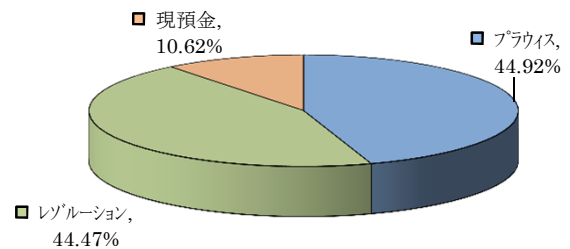
2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.35%	-1.02%	-0.98%	-1.61%	0.69%	-0.62%	-0.73%	-0.15%	-1.61%	0.15%	-2.48%		-7.78%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%	-0.31%	-0.65%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2018年11月30日	
基準価額:	9,424円	対前月比 -240円
純資産総額:	661百万円	対前月比 -23.6百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-3.92%
基準価額騰落率	6ヶ月	-5.35%
設定来	ファンド	-5.76%
基準価額騰落率	TOPIX	130.45%
	日経平均	166.03%

投資対象ファンドへの資産配分 (2018年11月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	1.14%	-0.92%	-0.41%	-0.87%	2.06%	-0.77%	1.79%	1.25%	-0.94%	-0.34%	-2.65%		-0.76%
レゾリューション	0.25%	-0.71%	-1.14%	-2.10%	0.05%	0.02%	-2.85%	-1.01%	-2.05%	1.32%	-2.20%		-10.01%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%	0.13%	3.82%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%	-0.22%	1.36%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS1」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFS1の基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

11月の株式相場は、日経平均で2.0%上昇の22,351.06円、TOPIXで1.3%上昇の1,667.45ptとなりました。世界景気低迷懸念や米中貿易摩擦、米ハイテク軟調などが相場の重荷となりましたが、月末にかけて米国株式の堅調を足掛かりに上昇しました。

上旬は、ドコモショックで始まり、米中貿易摩擦の行方、アップルのiPhone生産減、米中間選挙など日々のニュースで相場付きが変化し、方向感の定まらない鯨幕相場となりました。グロースの買い戻しもみられました。リスクを取る動きは限定的で、内需が市場人気となりました。

中旬は、米株式市場でアップルやエヌヴィディアなどのハイテクが軟調となり、日本株も下落しました。外需が不人気となる中、世界景気減速懸念やWTI先物の下落を受けて内需が相対的な人気を集めました。

下旬は、米中貿易問題の改善期待、FRB理事長講演からの早期利上げ打ち止め期待などから米株高となり、相場を押し上げました。大阪万博招致から建設株も堅調となりました。

セクター別騰落率では、倉庫・運輸関連、繊維製品、陸運、ガラス・土石製品、化学が上位となり、石油・石炭製品、パルプ・紙、鉱業、証券・商品先物取引、銀行が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.61兆円と、活況の目安となる2兆円を25ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが0.8%の上昇でTOPIXをアンダーパフォームしましたが、東証マザーズ指数は11.4%の上昇となり、TOPIXを大きくアウトパフォームしました。

ファクター面では、低リスク優位が継続しています。中国景気減速の懸念が強まったことで、外需関連株を嫌気する動きが生じたことが原因にあります。米中間選挙直後には米株式相場が急騰してリスク選好の動きもみられましたが、一時的なものにとどまり、リスク関連ファクターのリターンは倒産確率で-3.1%、D/Eレシオで-2.1%となりました。前月好調だったバリューファクターは大幅に失速し、予想E/Pは-4.5%、B/Pは-1.7%となりました。割安な銀行セクターは構成企業が軒並み増益でしたが、決算結果よりも低リスク効果が支配的な環境で、決算結果がネガティブでも割高なディフェンシブセクターの銘柄が買われたため、バリューファクターは機能しませんでした。また、グロースファクターのリターンもマイナスでした。低リスク効果に加えて、米国市場を発端にハイテク株を押し下げるイベントが相次いだことが影響しました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

11月の運用成績はJPYクラスで-2.65%となりました。TOPIXは上昇したものの、10月同様にヘッジファンドを中心としたポジション解消の影響などにより、業績動向や株価バリュエーションが全く機能しない相場展開となりました。ショートの比率が高かった小売、薬品、化学株の上昇が目立ち、中でもユニバーファミリーマート株の急騰が損益を大幅に悪化させる最大の要因となりました。

セクター別の損益では、小売、化学、医薬、銀行、食品セクターでマイナスとなり、陸運、その他製品、繊維セクターでプラスとなりました。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

株式市場は、小型がやや優位であり、東証マザーズも反発（先月の7割戻し）しましたが、利益モメンタムやバリューが劣位、ローリスクが優位となりました。

中小型株については、多くの銘柄でバリュエーションの低下が見られ、一部ロング銘柄の収益獲得が図れたものの、全体としてロングポジションの収益確保が不十分であり、ファンドパフォーマンスがマイナスに終わりました。

ポートフォリオは、先月大きく調整したマザーズの反発を想定し、新興株キャラクターのショートウェイトを抑制しております。

ファンドトータルとしてのマイナスは、ロング銘柄でのパフォーマンス獲得が不足したこと起因と考えております。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

12月の株式市場はボックス圏での相場展開を想定します。グローバルな景気後退懸念から上値は引き続き重いと思われませんが、ヘッジファンドの解約売りも12月上旬にはピークを迎えると考えられることや、日銀のETF買いもあることから下値も限定的と思います。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

景気敏感株の低迷が続く一方で、中小型内需グロース株のバリュエーション低下が続き、多くの銘柄で先月来下落トレンドが継続しています。

一方、局地的に高バリュエーションを維持する銘柄もあり、ビジネスモデルやマネジメントへの信頼性など定性的な評価の持続も見られ、中小型銘柄への一定の熱量は感じられます。

外部環境の不透明感を背景に、来期を睨んだ独自成長銘柄による収益獲得のチャンスは十分に存在すると考え、特に業績反転に着目した内需グロース銘柄による収益獲得を図りたいと考えております。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**